

とりいまついせきつうしん
鳥居松遺跡通信

№11

(財) 浜松市文化振興財団・浜松市生涯学習課文化財担当 2008年6月3日

弥生時代の繁栄ぶりがうかがえます。

5月に作業を開始した南側の調査区では、弥生時代後期（約1800年前）の遺跡がみつかりました。大量の弥生土器が、足の踏み場もないようにまとまって出土する場所もあり、当時の繁栄ぶりがうかがえます。弥生時代の出土品を掘り出すごとに、1800年前に、この地に住んでいた人びとの息吹が伝わってきます。



■ 大アゼにおける儀式の跡

水田と集落の間を区切る大アゼの中には、儀式に使われたと考えられる大量の土器が出土しました。盛り付け用の器である高杯の比率が高いことから、豊作を願って奉げものをした可能性が考えられます。

現地説明会を開催しました。

2008年6月1日（日）には、鳥居松遺跡の現地説明会を開催しました。鳥居松遺跡の調査成果は、新聞やテレビなどで何度も取り上げられたこともあって、市民の皆さんの関心も非常に高く、説明会当日は583人にのぼる見学者を迎えることができました。



■ 現地説明の様子

現地説明会では、調査担当者が発掘調査の成果を見学者の皆さんに紹介いたしました。見学者の方々からは、鋭い質問も飛び交いました。



■ 出土品の展示

出土品展示では、2002年に出土した家形土器も特別に現地公開しました。出土品の数々を熱心に見学する様子に、遺跡に対する関心の高さがうかがえました。

調査は佳境を迎えています。

鳥居松遺跡の発掘調査は6月中旬頃まで実施しています。調査期間中でしたら、見学は可能です。詳しくは、下記連絡先までお問い合わせ下さい。